

7月30日 フィリピの信徒への手紙4章1～7節

説教題：「婦人たちの働き」

イエス様の時代は、ユダヤ教の持つ家父長制の影響によって、女性の権利や働きは極めて小さくされていました。そのような時代や背景の中で、二人の婦人が尊い働きをしていたことが、今日の聖書箇所では示されています。

ここで、5節に「あなたがたの広い心」が知られることがとても大事であると、そして「その心をもって常に喜ぶ」ことが大事であると語られています。この「広い心」とは、ただ単純に「優しい心」「穏やかな心」という意味ではありません。これはむしろ「負けてもかまわないと思う心」とでも言うような、「譲る精神」「負ける精神」「損をしてでも神様を優先する信念」と翻訳することも出来るような言葉だそうです。これは、「自分の喜び」や「自分の正義」、「自分の権利」にしがみつくのではなく、よりよい善のために、特に愛の実現のために自分の喜びや都合を捨てる覚悟のことを意味しているのです。

この心を真に兼ね備えた方が、私たちの主であり十字架の死によって私たち人間の罪を贖ったイエス様です。イエス様は三位一体の神でありながら、人間としてこの世に生まれ、私たちと同じ目線でこの世で生きた方です。そのイエス様が父なる神様の御心を叶えるために十字架につき、命を捧げたところから、私たちの信仰は始まっているのです。私たちはイエス様の十字架によって教えられているように、自分の都合ではなく神様の御心を叶えるために喜んで苦難を受けとめことが求められているのであり、さらにはその私たちの生き方が広く人々に知られるようにすることが求められているのです。

さらに、その心をもって「常に喜ぶ」ことが、求められています。私たちは、御言葉によってこの世のすべてのものが神様によって作られた被造物であり、すべての物事の上に神様の御手があることを教えられています。楽しいことには神様のすばらしさが宿り、苦しいことには神様からの試練が宿っていると理解をします。すべては私たちのためになるように神様が与えて下さったことであり、そのすべてを、喜びを持って受け止めることが出来た時に、私たちもまた「広い心」をもってすべての物事に当たる事が出来るようになるのです。

今日の聖書箇所の言葉は、そのように「常に喜び、広い心をもって業を行った女性たち」に対する感謝の言葉であり、それを共に行うように手紙の読者に対して進めている言葉でありました。そしてその言葉が、今この御言葉を読む私たちにも向けられているのです。

今、私たちはとても苦しい時代を歩んでいます。病による災いを一つ乗り越えて、新しい一步を踏み出そうとする中でも未だに戦争も災害も尽きることはありません。そのように、多くの苦しみを経験する中で、それでも私たちはその中で「神様の御心」を追い求めていくのです。誰かが苦しんでいるのであれば、手を差し伸べる神様の業を行うことが出来ます。誰かが孤独になっているのであれば、私たちはその人と共に生きる神様の業を行うことが出来るのです。そのすべてを喜びとして受け止めて、損をしたとしてもそれで神様が喜んで下さるのであればと、恐れず一步を踏み出す、その働きを私たちは行うことが出来るのです。

神様に用いられている、その喜びを胸に、今週一週間の歩みを、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：フィリピの信徒への手紙 4章 1～7節

- ・ 1:だから、わたしが愛し、慕っている兄弟たち、わたしの喜びであり、冠である愛する人たち、このように主によってしっかりと立ちなさい。わたしはエボディアに勧め、またシンティケに勧めます。主において同じ思いを抱きなさい。なお、真実の協力者よ、あなたにもお願いします。この二人の婦人を支えてあげてください。二人は、命の書に名を記されているクレメンスや他の協力者たちと力を合わせて、福音のためにわたしと共に戦ってくれたのです。主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。